みんなの広場

はっらっ ところ 野老っ子

「父へ優勝報告がしたい」

寺内　正敏さん
（牛沼在住）

「バレーボールのために生まれてきたのですか？」と、思わず質問したくなる長身のアスリートは、寺内正敏さん（26歳）です。

この10月に所沢市民体育館で開催される『彩の国ところ国体・成年男子9人制バレーボール競技』に出場する埼玉選抜チームの選手です。コートでは、前衛のライトという、左利きの寺内さんにとって、アタックを決める最も効果的なポジションです。

寺内さんは若松小学校・東中学校の卒業生。小学校時代は小柄で将来の夢は、お寿司屋さんだったとか…。中学でバレーボールを始め、「サーブミスしたら校庭50周だ！」と言う先生の言葉を真に受け、翌朝ひとりで完走という根性の持ち主です。当時ベッドから足が出るほど背が伸び、りんご箱を置き足して寝ていたそうです。

高校2・3年生のときには、関東大会に連続出場を果たし、社会人になってからも、9人制バレーボール競技で、1999年・熊本国体で7位、2003年・静岡国体で5位と活躍しています。

しかし、順調な選手生活が続いていたわけではありません。今年に入り、今まで熱心に応援してくれていたお父さんが他界し、気持ちが落ち込みました。さらに、練習中に足を骨折してしまいます。

「（けがで）練習ができない3か月間は、焦りだけが募り、本当につらかった」と振り返ります。

しかし、仕事を終えてからの練習に加え、自宅での筋力トレーニングも欠かさず、寺内さんは見事に逆境をはね返します。

休日も練習か試合という生活の中、たまに時間ができたときには、耳かきをして昼寝をするのが寺内流リラックス法だそうです。

現在、選抜チームは、監督をはじめ、とても明るい性格の仲間21人。皆が一丸となり、いい雰囲気で練習を続けています。

「新しい市民体育館のフロアコンディションは最高で、思い切りジャンプができます。もちろん（優勝を）狙っていきますよ!!」と、地元開催の国体への力強い意気込みを聞かせていただきました。

この秋は、背番号16のサウスポーアタッカーから目が離せません。

アタックする寺内さん（静岡国体）

▲「小さい魚やいろいろ～！」新しい発見をした7月30日㈮／東川中流（牛沼）

TOKOROZAWA ものしり ウォーキング 53

上新井・六所神社

六所神社参道

上新井の西武池袋線が走る西側に六所神社があります。境内はくすのきやけやき、杉などの木々に囲まれ、春には参道と境内の桜が車窓から目を引きます。

六所神社の現在の本殿は明治10年に建てられたもので、けやきで造られた建物は市の文化財に指定されています。

同社の創建年代は定かではありませんが、東京都府中市にある大国魂神社から勧請（分霊すること）したとされます。

大国魂神社は、江戸時代までは府中六所宮と呼ばれました。武蔵国内の由緒ある一宮から六宮までの6つの神社の祭神を集めて祀っているところからきています。

氏子の話では、府中の大国魂神社と上新井の六社神社の本殿は互いに向かい合って建っているということです。

ところで、上新井の六所神社本殿正面に掲げられている「六所宮」の扁額は、新田義貞の末裔が書いたものです。

新田道純は、上野国新田郡下田嶋村（現群馬県太田市）の領主で、猫の絵を描くことで知られた人物です。新田家は、正式には岩松氏あるいは新田岩松氏を名乗り、道純の3代前の孝純から5代にわたって猫の絵を得意とし“猫絵の殿様”として知られました。

江戸時代、農村地域では養蚕が盛んで、猫は蚕を食い荒らすネズミを退治してくれるネズミ除けとして大切にされました。

新田氏が描く猫の絵はご利益があり、当時の人びとの間で人気を博したといいます。

蚕というと、六所神社には本殿の脇に蚕影神社が祀られています。由緒ははっきりしませんが、茨城県の筑波山に蚕影神社があり、そこから勧請したものではないでしょうか。蚕影神社は養蚕の神様として庶民の信仰を集めた神社で、市内にも同様の神社がいくつかあります。

新田道純が、どのような経緯で扁額を書くことになったのかはわかりませんが、所沢が新田氏とかかわりの強いことや養蚕が盛んな地域であったことを考えると興味深いことといえるでしょう。

本殿の扁額

街かど ズームイン

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶文章は添削あり▶掲載者には▶次回のテーマは「秋の夜長」▶過ごしやすい秋の時間です▶虫夜は、読書や音楽鑑賞などには絶好の音を聴きながらの散歩もいいですね▶皆さんの秋の夜の過ごし方や、思い出話などをお寄せください▶締め切りは9月6日㈪必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501 1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

▲クラシックからポピュラーまで、市内の演奏家たちが集まり「真夏の夢のコンサート」を開催。8月8日㈰／小手指公民館分館・ホール

▲球場全体が一体感。これが高校野球の醍醐味。「全国高等学校野球選手権埼玉大会決勝」。7月28日㈬／県営大宮公園球場

リサイクルふれあい館『エコロ』不用品ガイド

●**譲ります**　▷洗濯機▷ビニールプール▷ドラムセット▷28型テレビ▷布団乾燥機▷折り畳み式パイプベッド▷ワープロ▷草刈り機▷ＦＡＸ付き電話機▷学習机▷扇風機

●**求めます**　▷ビデオ付きテレビ▷ビデオデッキ▷掃除機▷こたつ▷ノートパソコン▷ベビーベッド▷電子オルガン▷子ども用自転車（12～14インチ）▷卓上ミシン▷シングルベッド▷電子ピアノ▷鍵盤付きハーモニカ

◎登録翌月の初旬に内容を館内に展示しています。

受付方法　リサイクルふれあい館へお問い合わせください。

休館日　月曜日、祝休日

申し込み・問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎2994-5374・FAX 2994-1118）

誰でもエッセイ

テーマ　夏休み

信州の夏

南住吉・宮下　広子

「信州」…。祖母は自分のふるさとをそう呼んだ。生まれ育ったその地が大好きだったことは、普段聞く話のそこここにうかがえた。私は、祖母の思い出話と自慢話を聴くのが楽しかった。

今から40年ほど前の夏の日、祖母と二人で信州に遊びに行くことになり、中央本線に揺られ松本へ。そこには不思議な時間の流れがあった。

たまたま旧の七夕にあたり、飾りつけをするお姉さんのきれいな歌声。蛍狩りをした暗い小川の静かな流れ。火の見やぐらを見上げたときの、夏空と蝉の声…。

あのとき信州に行ってよかった。日本の夏を心に焼き付けることができたのだから。

ラジオ体操

東所沢・勅使河原　亜矢

私が子どものとき、ラジオ体操が1日の始まりだった。眠い目をこすりながら嫌々やっていた。サボろうと思っても、我が家の前で行われているので、誘いの声から逃げられなかった。

体のためによいのだろうが、私にとっては「寝不足のもと」と勝手に決めこんでいた。今の時代、ラジオ体操をする夏休みはあるのだろうか？

7時になっても、気持ちよさそうに寝ている娘の夏休みがうらやましい。

夏休みの今昔

並木・竹田　亮一郎

テレビを観ていると、七十路の私は、時代の移り変わりに戸惑ってしまう。

小学生時代の夏休みは戦時中であったが、海辺の町に住んでいたので、防風林の中でのキャンプファイヤーや海水浴を楽しんだ。戦後、中学・高校の夏休み中は、貧しい生活を助けるため、アルバイトに終始した。私にとっては、悲喜こもごもの夏休みであった。

最近の子どもたちの夏休みは、どうなのだろうか。習い事や学習塾の合宿などで忙しく、気持ちに余裕のない子どもたちが多いと聞く。夏休みこそ、命の大切さを教えるよい機会だと思う。

私たち夫婦は、小学生の孫娘を連れて海水浴に出かけている。絵日記のお手伝いでもある。

市民プールの思い出

青葉台・岩間　喜久子

20数年前の夏休みのこと。「プアムにでも行ってきたの？」とからかわれるほど、私も子どもたちも真っ黒に焼けた。

スイミングスクールに通い始めていた私は、夏休みが始まると子どもたちと市民プールに行き、泳ぎの練習をした。

覚えたばかりのクロールと、挑戦中の平泳ぎを繰り返した。子どもたちのことは、そっちのけである。

お弁当、水筒、お菓子を載せた3台の自転車は、狭山ヶ丘から小手指の市民プールまで夏休み中走った。

サルスベリの夏

和ヶ原　山ノ井　義治

夏休みに故郷で、何十年ぶりの中学時代の同窓会が開かれた。ごぶさたしていたが、懐かしさに引かれて帰省した。

実家の庭には、白や紅色のやわらかいサルスベリの花が咲き誇り、女性的で明るくやさしい真夏の女王という風情だった。父母も元気で同窓会も盛会だった。

しかし、それから半月後、突然母の訃報が入った。ショックではあったが、死が間近の母に、同窓会出席のおかげで会えたのは、せめてもの慰めとなった。

母を見送るようなサルスベリの花は、悲しみを秘めた寂しい感じがした。

今年も、さわやかな香りのサルスベリの花が静かに咲いている。花はその時々の喜びや哀しみの心の移ろいで、その印象がくるりと変わることを教えてくれた。

夏休みの宿題

並木・横須賀　みどり

毎年、計画通りに宿題が終わらなくて、家族の手助けで切り抜けていた子どものころ、父親に手伝ってもらった作品を先生に褒められ、自分も少しやったのだからと勝手な解釈をしていました。

今の私の夏休みの宿題は、離れて住む年老いた両親に会いに行くこと。お互いの元気な様子にホッとして、花丸をたくさんつけて宿題終了の夏休みです。

姑の胡瓜もみ

久米・柳橋　コト

夏休みは田舎の旧盆と重なり、私たち家族は、毎年そのころを田舎で過ごした。子どもたちは伸び伸びとはだしで駆け回り、近くの海にも行った。別荘みたいだと喜んだ。

姑は曲がった腰をさらに曲げて、「こんなもんでも、食えっけ」と、胡瓜もみを出してくれた。

皆に喜んでもらおうと、心を込めて作ってくれた姑の胡瓜もみは、絶妙に美味しかった。子どもたちにも忘れられない思い出となった。「お姑さん、いつまでもあの味覚えていますよ」。

とことこ 町内会めぐり

【吾妻地区・西住吉町内会】
～子ども祭りも威勢よく～

吾妻地区久米の北東部、西武池袋線より北側の一帯を住吉町と呼んでいました。昭和42年にこの地域に、東住吉・西住吉・南住吉と住居表示がされたのを機に、住吉町内会は西武新宿線の東側を含め4つの町内会に分かれ、西住吉町内会が発足しました。

4つの町内会は集会所として住吉会館を設置し、共同で管理・運営にあたるとともに、自主防災会も組織するなどの連携・協力をしています。現在、西住吉の住民は683人、344世帯で、町内会員は250世帯です。

当町内会では、無償でお借りしている私有地に、子ども広場を設けており、毎日多くの人が利用しています。

町内会の行事として、地域住民の親ぼくを図るために、新年会、子ども夏祭り、暑気払い等を開催しています。

また、敬老会等の各種行事への参加や、信号機設置要請等の交通安全、防犯パトロールと防犯灯の設置・管理、環境美化清掃活動と有害広告物の撤去、そしてＰＴＡ等の行うリサイクル活動にも積極的に協力しています。

子ども祭りのようす

最近各地で増えている犯罪や非常災害時の対応を考えると、町内会員同士の連帯と親ぼくをより深めることが必要です。

そのために、今後もできるだけ多くの人が、町内会活動に参加していただける場をつくっていきたいと考えています。

――次回のテーマは『秋の夜長』です――